

平成16年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

平成16年11月25日

報道各位

平成16年度中間期業績の概況

株式会社エフエム東京

謹啓 深冷の候、皆様方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当社に深いご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当社では、本日の取締役会にて第40期（平成16年度）中間決算が承認されましたので、お知らせ申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、輸出の拡大や生産の増加に伴う企業収益の改善による設備投資の増加、雇用環境の持ち直しにより回復基調にはあるものの、個人消費回復の勢いは鈍いなど、景気の先行きについては依然として不安材料を抱える状況にあります。

わが国の総広告費ならびにマスコミ4媒体の広告費は3年連続で前年を下回っており、2001年と2003年の広告費を媒体別に対比してみると、その減少幅は新聞1,527億円、テレビ1,201億円、ラジオ191億円、雑誌145億円に上っております。景況感の改善から当上半期におけるテレビ・スポットは対前年比110%と好調に推移している一方、今期の地上波ラジオ全体の営業収益は、前年をやや下回るものと予測されております。

このような経営環境下にあつて、当社は経営体制の強化を図るとともにメディア間の競争激化に対応するため、番組内容の強化とデジタルコンテンツ事業への積極的な取り組みに注力してまいりましたが、営業収益は127億1千2百万円（前年同期比95.1%）にとどまりました。一方、費用に関しては削減努力が功を奏し、営業費用は122億2千5百万円（前年同期比93.2%）となり、これにより営業利益は4億8千6百万円（前年同期比188.5%）となりました。さらに営業外損益を加減した経常利益は5億円（前年同期比162.2%）となり、中間純利益は2億4千9百万円（前年同期比188.6%）となりました。

< 放送事業活動 >

番組改編

4月の番組改編では、若者から注目を集める山崎まさよし、m-flo(エムフロー)など全8アーティストが日替わりで登場する番組「マザー・ミュージック・レコーズ」を平日夜10時に編成いたしました。また、金曜日の午後に7時間の大型エンタテイメント番組「よんぱち 48hours」を編成、スポーツ、映画、旅行などさまざまなジャンルにわたる専門家を毎回ゲストとして招き、ホームページと連動した番組展開を始めました。

アースデー世界中継コンサート

4月22日には今年15回目を迎えたアースデー・コンサートを開催いたしました。今回は松任谷由実、佐野元春ら日本を代表する13組のアーティストが日本武道館に集結、地球環境への想いをJFN38局を始め全世界に向けて日、英、中、韓国語の4つの言語で発信いたしました。また、全国各地で行っているリスナー参加型の「クリーン・キャンペーン」は4年目を迎え、これまでに152カ所で開催、6万3千人余りの参加の下、継続的な活動を展開しております。

アテネ・オリンピック報道

8月13日より開催されたアテネ・オリンピックでは、民放連ラジオ101社統一企画として朝夕の情報コーナーと女子マラソンを生中継したほか、当社独自の企画として選手たちの愛聴曲とそれにまつわるエピソードを取材し、その楽曲とともに彼らのメッセージを紹介する番組「オリジナル・ミックス」を放送しました。

イベント連動企画

6月には環境省と連携し、6月21日、夏至の日の夜に電気を消して地球環境を考えようという「100万人のキャンドルナイト」キャンペーンに参画、ワイド番組「FROM TOKYO」で東京タワーを消灯する企画を実施いたしました。

また、8月には番組「モーニングフリーウェイ」で、在京ラジオ各局のパーソナリティおよび各界の著名人を招き、映画「華氏911」の日本最速上映会を実施いたしました。

FM ケータイ関連

昨年 KDDI より1号機が発売されたFMケータイの普及は順調に進み、9月に100万台を突破、11月には160万台に達する勢いです。今春にはVodafoneからFMラジオチューナー搭載携帯電話が発売され、年末にはNTTドコモからも発売される予定です。

地上デジタルラジオ関連

株式会社ニッポン放送、株式会社ジャパンエフエムネットワークと共に運営するDigital Radio 98 The Voice においては、将来の地上デジタルラジオにおけるサービスのあり方を実証中です。また、来春には3セグメント地上デジタルラジオ受信機が市販される予定です。

アースギャラリー・スタジオ イリス

放送設備関連では、8月にレコーディングスタジオを全面改装し、5.1chサラウンド収録、ブロードバンド向けの映像生放送、さらには来るべきデジタルラジオ時代のコンテンツ制作などに対応可能なスタジオ「アースギャラリー・スタジオ イリス」が誕生いたしました。

<企画事業活動>

イベント活動では、「グレーター・トウキョウ・フェスティバル(GTF)2004」を実施、FCバルセロナと鹿島アントラーズのドリ-ムマッチを開催したのを始め、ブロードウェイ・ミュージカル「キャバレー」を招聘するなど、期間中に昨年の314万人を上回る405万人を動員いたしました。また、今回からアジア各国の中学生と東京の中学生がGTFの各種イベントや日本の伝統文化に接するなどの体験を通じて交流を深めていく「GTF Kidsプロジェクト」を開始しました。

映画事業では「キャシャーン」、「深呼吸の必要」、「下妻物語」、「69」等、今期の日本映画を代表する話題作の製作に参画いたしました。

<その他の事業活動>

出版事業では、ベストセラーとなった片山恭一の「世界の中心で愛をさけぶ」をラジオドラマとして放送し、さらにCDブックとして刊行いたしました。また、TOKYO FM少年合唱団は、「読売日本交響楽団/カルミナ・ブラーナ」のステージ出演など引き続き充実した活動を続けております。

なお、本年10月、当社はモバイルコンテンツサービスを提供するジグノシステムジャパン株式会社を傘下に入れることとし、同社からの第三者割当増資の引受けおよび公開買付けにより11月11日までに同社の発行済株式総数の54.07%を取得いたしました。当社はかねてより放送メディアとモバイルの融合による事業の拡大を念頭に企業提携を模索してまいりましたが、今後、ジグノシステムジャパン株式会社との連携により、FM番組のコンテンツ配信の充実化、モバイルコマース事業のさらなる拡充を目指してまいります。

今後とも引き続きご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

敬具

平成17年3月期 個別中間財務諸表の概要

会社名 株式会社 エフエム東京

本社所在都道府県 東京都 (URL <http://www.tfm.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 後藤 亘

問合せ 役職名 総務局経理部長 氏名 東 和志 TEL (03)3221-0080 (内線) 2440

中間決算取締役会開催日 平成16年11月25日 中間配当制度の有無 有

中間配当支払開始日 平成16年12月15日 単元株制度採用の有無 無

1. 16年9月中間期の業績 (平成16年4月1日~平成16年9月30日)

(1) 経営成績 (注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年9月中間期	12,712 (4.9)	486 (88.5)	500 (62.2)
15年9月中間期	13,372 (5.2)	258 (46.1)	308 (42.0)
16年3月期	28,330		849		910	

	中間(当期)純利益		一株当たり中間(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭
16年9月中間期	249 (88.6)	276	91
15年9月中間期	132 (36.1)	146	82
16年3月期	211		201	81

(注) 1. 期中平均株式数

16年9月中間期	900,000 株
15年9月中間期	900,000 株
16年3月期	900,000 株

2. 会計処理の方法の変更 無

3. 売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益における()内の数値は、対前年中間期増減率

(2) 配当状況

	一株当たり 中間配当金	一株当たり 年間配当金
	円 銭	
16年9月中間期	30 00	_____
15年9月中間期	30 00	_____
16年3月期	_____	円 銭 60 00

(3) 財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	一株当たりの株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
16年9月中間期	39,313	29,486	75.0	32,762	56
15年9月中間期	33,837	29,147	86.1	32,386	08
16年3月期	39,143	29,113	74.4	32,314	98

(注)

16年9月中間期	900,000 株
期末発行済株式数	900,000 株
16年3月期	900,000 株

2. 17年3月期の業績予想 (平成16年4月1日~平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
17年3月期	28,806	1,251	668

上記の予想は、現時点で得られた情報に基づいて算出しております。したがって実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

前期（上半期）比較損益計算書

自 平成16年4月1日
至 平成16年9月30日

科 目	第40期上半期 (16.4.1~16.9.30)	第39期上半期 (15.4.1~15.9.30)	前期比
	千円	千円	%
営業収益	12,712,405	13,372,835	95.1
営業費用	12,225,443	13,114,439	93.2
営業利益	486,962	258,396	188.5
営業外収益	41,162	50,343	81.8
営業外費用	27,835	369	7537.9
経常利益	500,289	308,370	162.2
特別利益	14,277	-	-
特別損失	72,113	32,776	220.0
税引前中間純利益	442,454	275,594	160.5
法人税・住民税及び事業税	207,178	82,878	250.0
法人税調整額	13,945	60,582	-
中間純利益	249,220	132,134	188.6
前期繰越利益	1,259,016	1,435,390	87.7
中間未処分利益	1,508,237	1,567,524	96.2

金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期（上半期）比較営業収益内訳書

自 平成16年4月 1日
至 平成16年9月30日

	第40期上半期 <small>(16.4.1~16.9.30)</small>	第39期上半期 <small>(15.4.1~15.9.30)</small>	前期比
	千円	千円	%
営業収益	12,712,405	13,372,835	95.1
<u>放送事業収入</u>	8,192,635	8,323,547	98.4
<u>放送収入</u>	6,259,547	6,454,146	97.0
<u>タイム放送料</u>	4,540,261	4,693,586	96.7
<u>スポット放送料</u>	1,719,286	1,760,560	97.7
<u>制作収入</u>	1,092,498	986,682	110.7
<u>その他</u>	840,588	882,718	95.2
<u>企画事業収入</u>	3,940,093	4,366,073	90.2
<u>その他事業収入</u>	579,676	683,215	84.8

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

40 期(上期) 広告会社取り扱い順位

<総合順位>

40 期	39 期	広告会社
1	1	博報堂 DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ビデオプロモーション
4	6	アサツーディ・ケイ
5	5	放送文化事業
6	4	マッキャンエリクソン
7	8	ガイアコミュニケーションズ
8	7	協同広告
9	13	デルフィス
10	10	京橋エージェンシー

<タイム>

40 期	39 期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ビデオプロモーション
4	4	放送文化事業
5	5	協同広告
6	12	アサツーディ・ケイ
7	9	デルフィス
8	15	マッキャンエリクソン
9	8	フジサンケイアドワーク
10	11	オリコム

<スポット>

40 期	39 期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	5	ガイアコミュニケーションズ
4	3	マッキャンエリクソン
5	4	アサツーディ・ケイ
6	6	京橋エージェンシー
7	18	東急エージェンシー
8	38	デルフィス
9	8	アイランド・エス・ピー・ビー・ティオー
10	11	毎日広告社